

朝の肌寒さが続いたと思えば、昼間は初夏のような暑さ。体温調節の難しい季節です。

現在会員登録数 4,068 人さま。次号は 6 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇-----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

《5》宮川健郎 私の出会った児童文学者たち

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇-----＋

■-----
【1】お知らせ
■-----

● 英語圏児童文学会 西日本支部 夏の講演会

「絵本にみる生態想像力ー「生きているものどうし」の関係を想うことー」

講師：山本一成さん（滋賀大学教育学部准教授）

日時：6月24日（土）14：00～16：00

会場：大阪府立中央図書館 多目的室 定員：60人

参加費：600円（一般） ◎オンラインあり（講演会後にビデオ配信）

主催：英語圏児童文学会 西日本支部 共催：IICLO

※詳細・申し込み→ <https://lecture2023-jsclwest.peatix.com>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

*年間1万円以上ご寄付いただいた方には、イイクロちゃんグッズをプレゼントしています。

※詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html

※Syncable（シンカブル）＝継続寄付（毎年／毎月）、単発寄付が選べます。

→ <https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/@iiclo1196>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/ml_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『きみの話を聞かせてくれよ』村上雅郁/作 カシワイ/絵 フレーベル館
2023年4月 対象年齢：中学生以上

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

概要：中学校2年生の黒野良輔が、友だち関係や自分自身のことで悩んでいる1年生～3年生までの男女に近づいて、悩みを解消するために、ちょっとした手伝いをする様子を描いた連作集。黒野君は、絵がうまいと言われて仲良くなった白岡六花（りっか）が、クラブの愚痴を言ったことで友だちの早緑（さみどり）とけんかしたことの和解を手助けしたり、女子にかっこいいと言われて自分のイメージを壊したくないウサギ王子と呼ばれる羽紗（うさ）がタルトタタンを作って食べたいという願いを、1年生でケーキ作りが得意な虎之助に依頼して叶えたりする。全7エピソード。

T：7つのエピソードは、それぞれ独立していますが、お互いが絡み合う作りになっていますね。

Y：それが謎解きの要素につながって、読み進められました。また、読み直すと、この人物、こんな最初から出てきているんだと気づいておもしろかったです。

T：悩んでいる主人公たちを、黒野君は解決に向けて、タイトルにあるとおり、話を聞いたり、向かい合うべき人と出合わせたりします。しかしながら、黒野君が、答えを持っているわけではありません。それぞれが自分で見付けていくという点に納得しながら読みました。

Y：黒野君は、かなりいい人ですが、みんなを助けることについて、最後の章で、養護教諭の先生に、「おもしろい」から「ちょっかいを出したくなっちゃう」と言っています。つまり、誰かのためというおためごかしではなく、好きでやっていると言いきります。その思い切りが、この作品を教訓的にしていないのだと思いました。

T：教訓的でない要素として、ユーモアがある点もあります。いたずら好きの男子3人が、どんないたずらをしようかとLINE（ライン）で相談するところがありますが、そのやりとりが軽妙で、ことばでスタンプが描写されるなど、目に浮かぶように書かれています。うまい！と思いました。

Y：このラインでは、3人で白岡さんにいたずらをする相談をしているのですが、実は、そのうちの2人が、背後で別に相談していて、本当のターゲットは3人の中の1人だったということが最後にわかって、3人の中に溝ができてしまいます。中学生ぐらいの男子によくあることだと思って懐かしく読みました。

T：こういう、ちょっと度を越したいいたずらなどというのも、これまで何かの作品に描かれているようで、あまり描かれていなかったと思います。そういう意味で新鮮でした。

Y：同じような意味で、1年生の梢恵が、尊敬している先輩が、思ってもみない人の悪口を言っているのを聞いて人が信頼できなくなり、不登校になってしまったとき、心配した兄が「梢恵はそのまま、いいよ」というと「…お兄ちゃん、なにもわかってない」と言い、「変わらなくていいだなんて！じゃあ、ずっと、ずっと苦しめって言うの？」という反論が中学生ぐらいの

出口の見つからない苦しさを巧みに表現していると思いました。

T：外見も人とのかかわり方も、好きなこともいろいろな中学生が出てきて、多くの中学生読者が共感できるのではないのでしょうか。

Y：本当に。色やイメージを表現した名前の工夫も楽しかったです。人はわかりあえないことが当然ということが伝わって共感しました。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第93回「氷と後光（習作）」

父のかなしみ

〈雪と月あかりの中を、汽車はいっしんに走っていました〉。

時刻は〈もう十二時を過ぎ〉、〈わずかの乗客たちも大てい睡〉っています。

「まだ十八時間あるよ。」

「ええ。」（中略）

「ここどこでしょう。」

「もう岩手県だよ。」

話しているのは、小さな子どもを連れた若い父親と母親です。苹果（りんご）のように輝く頬を持ち、〈赤い天鷲絨（びろうど）の頭巾をかぶった〉小さな子は、〈毛布につつまれて〉すやすやと眠っています。〈その唇はきちっと結ばれて鮭の色の谷か何かのように見え、少し鳶色がかかった髪の毛は、ぬれたようになって額に垂れていました〉。車中は苹果の匂いに満ちています。

若い夫婦も微睡み、汽車はコトコト走り続け、やがて停車します。それは明け方の盛岡で、時計はちょうど七時。子どもも眼をさまします。陽がのぼると同時に〈俄かにさっと窓が黄金いろになり〉、窓の氷は綺麗な飾り羽根のように見え、父は子に〈小さな有平糖のような美しい赤と青のぶちの苹果を〉持たせます。

そのとき、若い母親が〈あら、この子の頭のところで氷が後光のようになってますわ〉と言います。窓の光が子どもの頭のところで後光のように光ったのです。父は〈少し泣くようにわらい〉、〈この子供が大きくなってね、それからまっすぐに立ちあがってあらゆる生物のために、無上菩提を求めるなら、そのときは本当にその光がこの子に来るのだよ〉と呟きます。若い母親はだまって下を向き、すっかり昼間になったところで物語は閉じられます。

上記引用中の夫婦の会話から、〈この夜行は、青森発常磐線経由上野行であると推定できる。大正八年の時刻表によれば、当時、この経路の青森上野間は、約二三時間であった〉と述べるのは、坂井健です（「氷と後光（習作）」『宮沢賢治の全童話を読む』2003年）。

苹果の香が漂う車中や宗教色など、「銀河鉄道の夜」や詩「青森挽歌」などとも通じる作品ですが、後光がさす神々しい子どもの描写、そしてそれを見た若い父母の会話が特徴的です。わが子に後光のような光がさしたとき、若い母は子の前途に多望や明るさを感じとっているようですが、一方父は、自らの子どもが求道者となることをかなしく思いながら、しかしそう祈らねばならないと述べています。現実の賢治父子と重なり合うようにもみえる箇所であり、無上菩提へ進む賢治の決意と、それに伴う父のかなしみを感じさせます。（ペ吉）

(本文の引用は、筑摩書房刊『宮沢賢治コレクション5 なめとこ山の熊』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 47

刑務所のまども、まどの格子も、ひとつとして花がさいていないところはありませんでした！ つるがよじのぼり、まきついて、またさがっていました。へいの上には、おそろしいとんがりのかわりに、いちめんサボテンがはえていました。

(『みどりのゆび』 モーリス・ドリュオン/作 安東次男/訳 岩波少年文庫 岩波書店 1977年7月第1刷、1999年7月第28刷、p.78)

兵器工場を経営する父の一人息子として生まれたチトは、八つになって、学校へ行くと、「ほかのお子さんとおなじではありませんので、わたくしどもではおあずかりいたしかねます」と言われ、両親のもとへ返されます。

そこで、チトは実際の体験を通して学習をすることになり、庭師ムスターシュに、庭の授業をうけます。ムスターシュは、チトの親指が、「種のひとつにさわると、種はどこにいても、たちどころに花がさく」という「みどりのゆび」であることを見抜きます。

私は、子どものとき、この作品を、文庫ではなく、単行本で読み、とても好きだったのを記憶しています。ただ、私が覚えていたのは、冒頭の引用にあるイメージ、つまり、チトが刑務所を花でいっぱいにしたというイメージでした。とても華やかな気分になったことを覚えています。

大学生になって再読したとき、「チトは天使でした！」という結末にショックを受けました。そして、今回再読して、チトによって、兵器工場が使いものにならなくなるという展開を読んで、ロシアがウクライナ侵攻をしている今、子どもにも大人にも読んで欲しい作品だと改めて思いました。(Y)

《4》 行って来ました！

姫路市書写の里・美術工芸館で7月8日まで開催されている「生誕100年・最後の叙情画家 藤井千秋展」に行ってきました。この展覧会では、戦後の少女雑誌などで活躍した抒情画家、藤井千秋(1923-1985)の原画や掲載誌、ノートや便せん、ハンカチなどのグッズ、ドレスなど200点以上が展示されています。

展示は、第1章「『少女の友』のスター画家」、第2章「『女学生の友』に活躍の場を移して」、第3章「童画の世界」、第4章「魅力的な千秋グッズ」、第5章「晩年の作品」の5章に分けられ、藤井千秋の画業がたどれるようになっています。

藤井千秋が『少女の友』に登場したのは1946年で、戦前の中原淳一に代わる

人気の挿絵画家になったそうです。ドレスを着た少女や、背景に描かれた花などのカラーの口絵原画は、水彩で描かれ、美しく、華やかです。物語の挿絵のシルエット画や、墨だけで描かれた絵もあり、少女マンガとのつながりを強く感じました。

『女学生の友』は『少女の友』より読者年齢が高い、ハイティーン向けの雑誌です。明るく快活で現代的な少女像へと作風が変化したと解説にありました。描かれた少女たちはまっすぐに正面を見据えています。表紙の絵をてがけた小さいサイズの別冊付録がずらっと展示され、整った髪型、読者を見つめる大きな目、すっとした鼻筋に、小さな口が共通していて、清潔感あふれる知的な「美少女」たちが描かれているように感じました。

幼い子ども向けに描かれた「にんぎょひめ」「シンデレラ姫」「おやゆびひめ」の姫たちは、顔も体つきも丸く、幼い少女の絵柄です。「にんぎょひめ」は、子どもの頃に読んだ記憶がよみがえり、懐かしくなりました。(K)

姫路市書写の里・美術工芸館

<https://www.city.himeji.lg.jp/kougei/index.html>

《5》 宮川健郎 私の出会った児童文学者たち 第2回

第1章 坪田譲治先生

その2 『びわの実学校』

坪田譲治先生（1890～1982年）には、子どものころに2度お目にかかったことがあります。

この連載では、「思い出話」を語るだけではなく、私の出会った児童文学作家や評論家の仕事に対する考察や、さらには、そこから、現代児童文学史のとらえ直しも試みます。ご愛読ください。

<本編はこちらから>

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/watashinodeatta-2_M153.pdf

■ ----- ■
【3】全国イベント紹介
■ ----- ■

● 下田昌克 絵本「せかいのあいさつ」原画展

会期：6月12日（月）～17日（土）

会場：ピンポイントギャラリー（東京都渋谷区）

● 「2023年度児童文化講座」 第1回「聞くことのコップ」が満ちるまで
—幼年文学を手渡すために、そして、詩についても—

日時：6月13日（火） 10:00～12:30

会場：大阪府立中央図書館 ライティホール

講師：宮川健郎（大阪国際児童文学振興財団理事長）

主催：大阪府子ども文庫連絡会 ※有料、要申し込み

● 第26回絵本学会大会 “よりどころ”としての絵本

会 期：6月17日（土）・18日（日）
会 場：大阪大谷大学 志学台キャンパス（富田林市）
基調講演「絵本と生きる」講師：田島征三（絵本作家）ほか
主 催：絵本学会 ※一般参加可、有料、要申し込み

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント
■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『きみの話を聞かせてくれよ』をプレゼントします。ご希望の方は、プレゼント応募フォームから、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ ご応募ください。

応募フォーム⇒ <https://forms.gle/wTrFHBedaw4s3Bus9>

締切は6月12日（月）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |
— | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

連休明けの街なかでは、マスク姿が徐々に少なくなってきました。お互いの表情が読み取れることによって、これまで以上に会話がはずむこともあり、口の表情が語ることの大きさを感じています。とはいえ、新型コロナ感染症がなくなったわけではなく、マスク着用に悩む毎日です。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
